

令和 2 年度 墨田区立竪川中学校 経営報告書

令和 3 年 3 月 9 日

学 校 目 標	徳育・知（智）育・体育の調和のとれた、人格の形成を目指す
目 指 す 学 校 像	授業が充実し、生徒と生徒、生徒と教職員の間に信頼関係のある学校 チーム堅中として、クワトロゼロ（いじめ・不登校・校則違反・残菜）を目指す
目 指 す 子 供 像	①心豊かな、美しい感性をもった生徒 ②意欲的に学習する生徒 ③たくましく、何事もやりぬく生徒
目 指 す 教 師 像	人権意識を高め、生徒や保護者に寄り添い、現実を直視し情熱をもって職務を遂行する教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、子供に確かな学力を育てるために、分かりやすい授業の実施に努めているか。	A	●授業改善プランの実施状況に対して、自己点検を行う。振り返り学習として問題データベース、タブレットドリルの実施。タブレットの有効活用を通して、分かりやすい授業、家庭学習の充実	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対して、組織的に適切な支援を行っているか。	B	特別支援教育推進委員会の機能を充実させる。本年度より開設した特別支援教室の活動への支援体制の充実を図る。	B	B
	学校は、子供の将来の自立に向けた進路指導・相談活動に取り組んでいるか。	B	SCの全校面接を実施し、年5回のいじめ調査や、教育相談期間で得た情報を全教職員で共有し、進路指導・相談活動に生かす。7月・12月・3月の年3回の教育相談を実施する。	B	A
	学校は、教員の指導力・授業力を高めるために組織的に取り組んでいるか。	B	●【別 様】の作成を通して、各教科との連携の取れた指導していく。また、校内研修会等で生徒に伝わりやすい評価を研修し、実践していく。●研究協力校2年目の取組を通して、指導と評価の一体化を図るため、生徒の意欲を向上させる評価の仕方に視点を置き研究を進める。	B	A
	学校関係者評価委員会の意見等		一人一台のタブレットの有効活用を通じて、家庭学習の充実に努め、「分かりやすい授業」「できる授業」を展開し、前後期生徒授業調査で、授業への満足度を継続し、学力向上が結びついてほしい。		

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか。	B	SNSの利用上の堅中ルールを生徒自らが考えさせることにより、情報モラル教育の充実を図り、問題行動の予防と解決に取り組む。	B	B
	学校は、子供が基本的な生活習慣を身に付け、望ましい人間関係を作るための心の教育を行っているか。	B	道徳の教科化において、考える道徳・議論する道徳の実践し、【別 様】の作成を通して、各教科との連携の取れた指導していく。また、生徒に伝わりやすい評価を実践していく。	B	B
	学校は、子供の安全を確保するための取組を行っているか。	A	避難訓練時だけでなく、日頃から防災教育に取り組む。また、防災給食を実施し、災害時の食育について取り組む。	A	A
	学校は、子供や保護者からの意見や要望を把握し、教育活動の点検や改善に役立っているか。	B	生徒は、年5回の生活意識調査を実施、年2回保護者も実施する。また、前期、後期の学校評価調査を実施する。調査結果を共有すると共に、改善策を全員が考え実践する。	B	A

様式 4

	学校関係者評価委員会の意見等	近年の情報化社会において、生徒を取り巻く環境の変化に伴い、中学生の携帯電話（スマホ）所持率が増加している。学校任せにならず、保護者も安全な利用法を学び課程での指導を強化していく。また、学校はSNS適正利用に向けて竖中生の利用ルールを確立してほしい。			
項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、管理職の経営方針に基づき、組織的な教育活動・学校運営を行っているか。	B	組織としての改善策を全員のものとし、一人一人がそれぞれの役割を果たす。教員同士による、年2回の互見週間を継続し、主幹・主任が若手教員を指導するOJTを実践する。	B	B
	学校は、子供の実態に合わせた具体的な目標の設定及び評価を適切に行っているか。	B	前後期の授業アンケートだけでなく、普段からの生徒の様子を全員が共有することをさらに進める。また、50分の授業での適正な評価に努める。	B	B
	学校には、適切な教育活動が行える環境・設備等が整えられているか。	A	概ね施設・設備は整っている。体育館に空調設備が備わり、有効的に活用し、熱中症対策、冬季の怪我の防止に今後も取り組む。格技室にも空調設置予定のため活用の幅が広がる。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	格技室も空調装置設置予定のため、教育活動、防災環境の観点からも望ましい。また、学力向上に向けて電車の防音のため全教室に二重窓等の防音措置をしてほしい。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを分かりやすく伝えているか。	B	学校便り・学年便りの発効は定期的に行われている。それが、全部の保護者に伝わる様な返信欄等を設ける。また、学校ホームページの更新、配信メールの有効活用に努める。	B	B
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得て教育活動を進めているか。	A	学校支援地域協会を中心に、地域の協力は現状でも十分であるが、竖中フェスティバル、3年生受験対策「ワープ」面接会の活動を保護者、町会等へ伝え、理解と協力を得ていく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	・正門、北門の表彰等の掲示及び学校便りを町会回覧していることが、伝わり易い元になっている。保護者アンケートより、学校支援地域協会の認知度が、73%に達したことは、活動が認められたことは喜ばしい。今後も認知度を上げる活動をしていく。			

2 令和2年度学校評価のまとめ

<p>今後も、クワトロ（いじめ、不登校、校則違反、偏食）ゼロを目指している中、【残菜】は、年間平均0.4～0.5%、【校則違反】ゼロ、不登校生徒の出現率は、4.5%である。【いじめ】は、早期対応により、継続ゼロ、が現状である。今年度も、【別業】の作成を継続行して、道徳教育に生かしている。さらに、生徒授業調査では「授業内容に満足しているか。」の項目で、全学年、各教科平均80～98%の肯定的回答を学力向上の結果に結び付けたい。次年度に向けて、更なる学力向上を目指すとともに、学校全体を組織的に機能させていく。そのために、主幹・主任の役割分担を明確にし、それぞれの組織が機能的に仕事をできるようにする。また、学年担任制が有効に機能している検証し、教員の意識改革に取り組む。さらに、副主任制度の活用を継続して、各主任の仕事分担の改善に努め「ライフワークバランス」に配慮した学校経営を行う。</p>
--

以上の通り報告いたします。

墨田区立竖川中学校 校長 織部 明広 公印